

# 諏訪の景気動向

平成19年 2月

(平成19年1月末D・調査)

平成19年2月15日

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成 19 年 1 月末）

「平成 19 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒヤリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

当金庫が諏訪地方 204 社のご協力を得て行った 1 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社での業況判断 D I（3 ヶ月前比）が 6.4 ポイントで前回調査時（1.0 ポイント）よりもマイナス幅が拡大している。

製造業の業況判断 D I（3 ヶ月前比）は、「好転」13.0%・「悪化」18.2%で 5.2 ポイントと前回調査時の 1.3 ポイントから 4 期ぶりにマイナスに転じた。

受注動向 D I は「3 ヶ月前比」14.3 ポイントで受注が減少した企業が多くみられる。

規模別では、従業員数「100 人以上企業」の受注動向 D I（3 ヶ月前比）は 27.6 ポイント、「30 人～99 人企業」は 8.2 ポイント、「29 人以下企業」は 13.2 ポイントで企業規模に拘らず受注が減少した企業が多くなっている。

業種別では、電気機械は前回調査時に続き受注が減少した企業が多く、受注状況 D I（3 ヶ月前比）は 23.3 ポイントとなっており（前回調査時 16.7 ポイント）、金属製品や精密機械などにも受注が減少した企業が多くみられる。「3 ヶ月後」の受注予想は企業により区々ではあるが、輸送用機械、電気機械、金属製品に受注増加を予想する企業が多く、製造業全体の「3 ヶ月後」の受注予想 D I は 8.5 ポイントと受注回復を予想する企業が 24.2%ある。

ヒヤリング調査では、自動車関連企業、デジタル一眼レフカメラ関連企業に引き続き堅調な見方が多くきかれた。また、携帯電話、情報機器などの電気機械関連企業は、当面の受注減少は季節要因（年末・クリスマス商戦明けの需要低迷期）であり、春以降は次第に受注が回復するだろうとの期待感が窺えた。

地域製造業の現況は、ヒヤリング調査や受注予想 D I では受注が増加すると予想する企業が多いことから、底堅い動きのなかでの一服状況とみられる。

商業は、年末年始の食料品などは個人需要が多い時期であり順調な売れ行きをみせたが、暖冬の影響を受けた商品もあり「3 ヶ月前比」業況判断 D I は 0.0 ポイントとなっている。また、「前年同期比」の業況判断 D I は、冬物衣料品などの動きが低調で 16.7 ポイントとなったが、昨年 1 月調査の同指標（28.6 ポイント）に比べ水面下ながら業況は幾分回復している。

冬物衣料品は、暖冬の影響から売れ行きは低調となった。食料品は、年末年始などは順調な売れ行きをみせたが、店舗間競争が激しく商品価格が低下しており客単価を伸ばせずに苦戦する店舗がみられた。家電製品では、引き続き薄型 TV が順調な売れ行きをみせている。

観光・サービス業は、12 月の降雪量が少なくスキー場などに影響が出たが、旅館・ホテルの中には、特別企画やイベント実施などの営業強化により宿泊客が増加したところがみられ、「前年同期比」の業況判断 D I は 5.9 ポイントと幾分業況は改善されている。

建設業の業況判断D I (3ヶ月前比)は、土木関係で「平成18年7月豪雨災害」の復興工事の受注を確保したところがあり、業況判断D I (3ヶ月前比)は0.0ポイントで9期ぶりにマイナスから脱した。また、「前年同期比」及び「3ヵ月後予想」の業況判断D Iも7.1ポイントと回復している。

雇用状況は、12月の諏訪地方(諏訪職安・岡谷職安合算)の有効求人倍率が1.39倍と平成15年10月から39ヶ月連続して1倍台を維持しており安定している。

新規求人は、諏訪・岡谷職安合わせて1,618人と前年同月比2.0%増加している。また、新規求職者数は960人で前年同月比11.1%減少している。

製造業の収益性D I (3ヶ月前比)は、受注環境に幾分翳りがみられるなかで、素材の高騰や原材料の値上がり、受注単価の引き下げなどが続きマイナス幅が拡大した。回答全社での収益性D I (3ヶ月前比)は、商業で個人消費の旺盛な時期であったことから好転したとする企業がみられたものの、全体では17.3ポイントと11期連続してマイナスとなっており、実感としての景気回復感は弱いものがある。

## 業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(204社)の「3ヶ月前比」の業況は、好転とする企業が14.2%、悪化とする企業が20.6%で業況判断DIは6.4ポイントと前回調査時(H18/10)の1.0ポイントからマイナス幅が拡大している。

製造業の業況判断DIは5.2ポイントで4期振りにマイナスに転じ、受注状況DIも14.3ポイントと平成17年1月以来の低い水準となっている。

主要5業種の業況判断DI(3ヶ月前比)では、金属製品が25.0ポイント、精密機械が21.4ポイントと景況感が落ち込んでいる。

非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の業況判断DIは10.0ポイントで、前回調査時よりもマイナス幅が若干拡大した。

産業別業況表

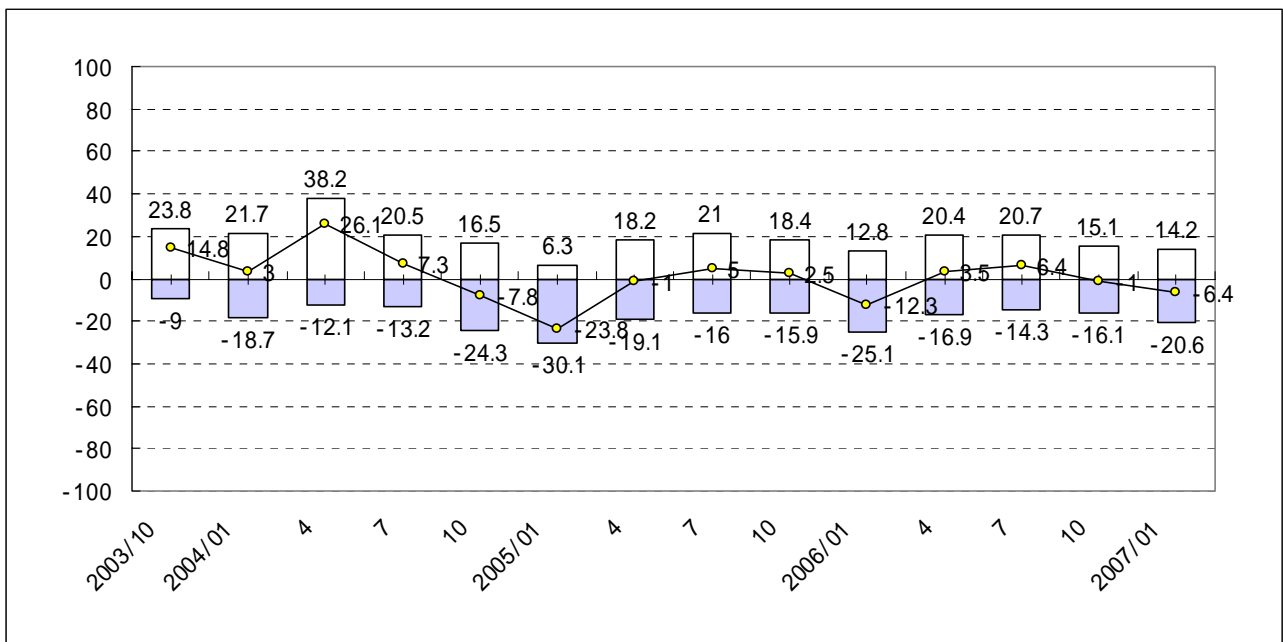
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	204	14.2	65.2	20.6	-6.4	204	29.4	45.6	25.0	4.4	202	16.8	69.3	13.9	3.0
製造業	154	13.0	68.8	18.2	-5.2	155	29.7	47.1	23.2	6.5	153	13.1	73.2	13.7	-0.7
非製造業	50	18.0	54.0	28.0	-10.0	49	28.6	40.8	30.6	-2.0	49	28.6	57.1	14.3	14.3
商業(大型店)	18	11.1	77.8	11.1	0.0	18	16.7	50.0	33.3	-16.7	18	22.2	72.2	5.6	16.7
建設業	15	20.0	60.0	20.0	0.0	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	21.4	64.3	14.3	7.1
観光・サービス	17	23.5	23.5	52.9	-29.4	17	35.3	35.3	29.4	5.9	17	41.2	35.3	23.5	17.6

## 自社業況判断DIの推移(「3ヶ月前」と比べて)

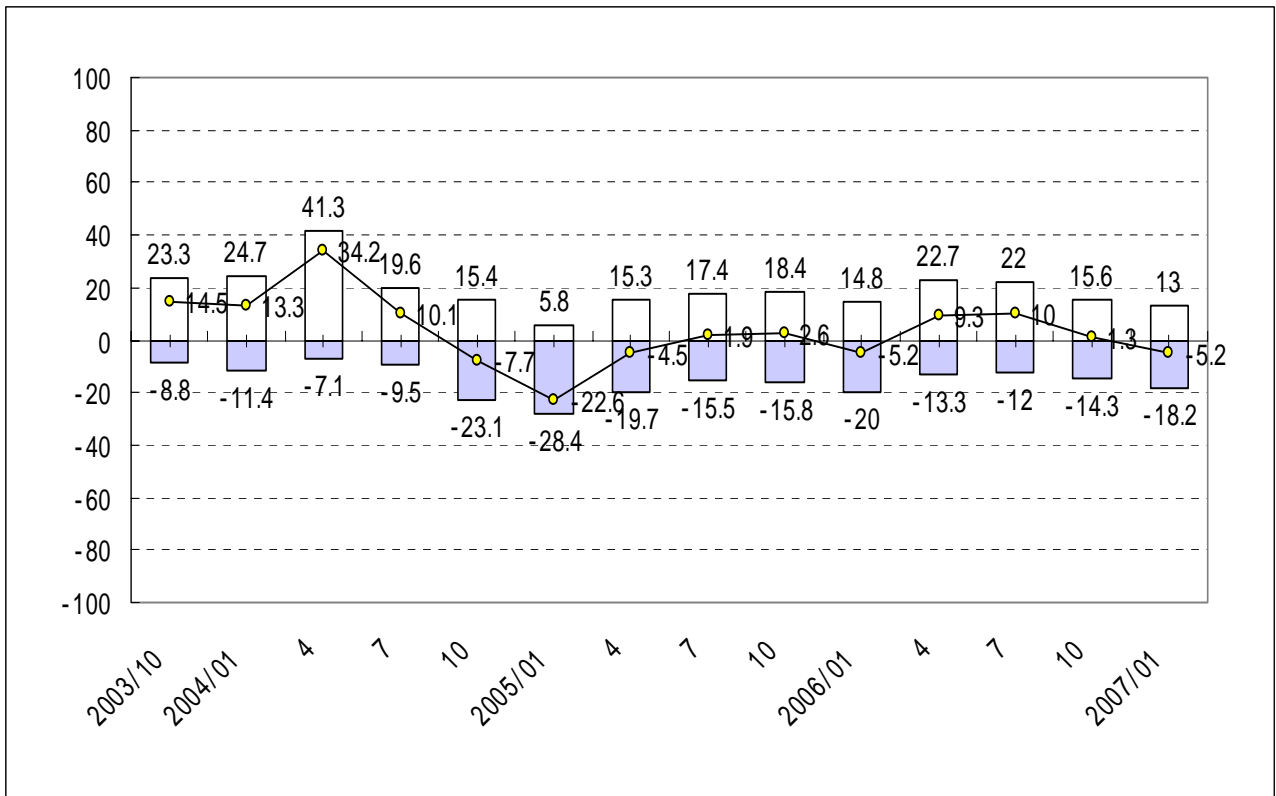
回答全社

グラフ-1



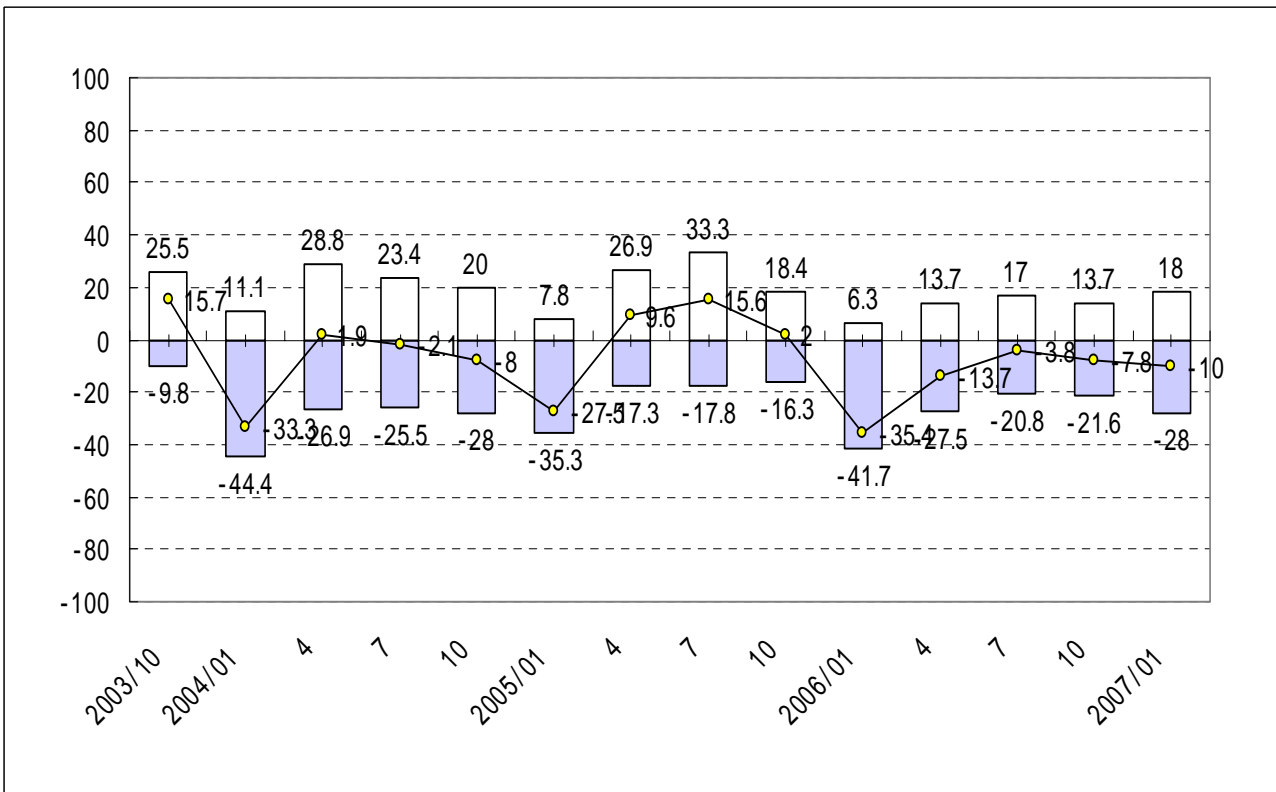
製造業

グラフ - 2



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 3



# 産業別景気動向

## 1. 製造業

製造業の業況判断D I（3ヶ月前比）は、5.2ポイントで4期振りにマイナスに転じた。主要5業種では、輸送用機械の業況判断D Iが「3ヶ月前比」11.1ポイント、「前年同期比」38.9ポイントと高水準で推移しているが、金属製品と精密機械が悪化に転じた。

収益性D I（3ヶ月前比）は、平成18年4月末の調査時に8期振りにプラスに転じたが、今回調査時まで原材料の高止まり等から17.0ポイントと3期連続してマイナス幅が拡大している。

規模別では、「30～99人企業」の業況判断D Iが「3ヶ月前比」4.1ポイント、「前年同期比」26.0ポイントと好転しているが、「100人以上企業」の業況判断D I（3ヶ月前比）は20.7ポイントと業況悪化企業が多くみられる。

また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは全社で13.1%の企業が好転すると予想しているが、「100人以上企業」では悪化とみる企業が17.2%みられる。「100人以上企業」の業況予想D Iは6.9ポイントとなっており慎重な見方の企業も多い。

地域製造業の業況判断D I（3ヶ月前比）は5.2ポイントであるが、全社では68.8%の企業が「横這」としており、また前年同期比の業況判断D Iは6.5ポイントであることから、景況には底堅いなかでの一服感がみられる。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	D I	回答企業	好転	横這	悪化	D I	回答企業	好転	横這	悪化	D I	
製造業	154	13.0	68.8	18.2	-5.2	155	29.7	47.1	23.2	6.5	153	13.1	73.2	13.7	-0.7	
規模	1～29人	76	10.5	73.7	15.8	-5.3	76	17.1	60.5	22.4	-5.3	75	14.7	70.7	14.7	0.0
	30～99人	49	16.3	71.4	12.2	4.1	50	44.0	38.0	18.0	26.0	49	12.2	77.6	10.2	2.0
	100～人	29	13.8	51.7	34.5	-20.7	29	37.9	27.6	34.5	3.4	29	10.3	72.4	17.2	-6.9
中分類	金属製品製造業	20	10.0	55.0	35.0	-25.0	21	19.0	52.4	28.6	-9.5	20	10.0	80.0	10.0	0.0
	一般機械器具製造業	41	12.2	75.6	12.2	0.0	41	22.0	48.8	29.3	-7.3	41	12.2	68.3	19.5	-7.3
	電気機械器具製造業	30	10.0	70.0	20.0	-10.0	30	36.7	43.3	20.0	16.7	29	10.3	75.9	13.8	-3.4
	輸送用機械器具製造業	18	16.7	77.8	5.6	11.1	18	50.0	38.9	11.1	38.9	18	11.1	77.8	11.1	0.0
	精密機械器具製造業	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	14	21.4	50.0	28.6	-7.1	14	7.1	78.6	14.3	-7.1

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは25.0ポイントとなっている。好転した企業が10.0%みられるが、悪化した企業が35.0%と前回調査時から16.0%増加し業況は幾分悪化している。

「3ヶ月後」の業況予想D Iは0.0ポイントで、「横這」とみる企業が80.0%となっており先行きの見

方は幾分弱含みとなっている。

一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは0.0ポイントで全体としては堅調に推移しているが、「3ヶ月後」の業況予想D Iは7.3ポイントと5業種のなかで最も慎重な見方となっている。

電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは10.0ポイントと前回調査より幾分マイナス幅が広がったが、「3ヶ月後」の業況予想D Iは3.4ポイントと前回調査の13.3ポイントから10ポイント近く回復した。

輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは11.1ポイント、「前年同期比」で好転した企業が50.0%と業況は好調であり、「3ヶ月後」の業況予想D Iも「横這い」とする企業が77.8%と高水準となっている。

精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前比」の業況判断D I 21.4ポイント、収益性D I 38.5ポイントと、悪化したとする企業の割合が増加傾向にある。

#### 他の製造業

業種により区々となっているが、食料品製造業などに受注が好転した企業がみられる。

#### 規模別業況

規模別業況判断D I（3ヶ月前比）は、「1人～29人企業」5.3ポイント、「30人～99人企業」4.1ポイント、「100人以上企業」20.7ポイントで企業規模により業況が分かれている。また、前年同期比では「30人～99人企業」の業況判断D Iが26.0ポイントと、昨年より業況が好転したとする企業が44.0%みられた。

「3ヶ月後」の業況予想D Iは、「100人以上企業」で6.9ポイントとマイナスではあるが、前回調査の15.2ポイントより改善がみられた。

#### 受注状況D I（業種別、規模別）

製造業全社（154社）の受注状況D I（3ヶ月前比）は14.3ポイントと、前回調査時より12.3ポイントマイナス幅が拡大した。

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が一番多いものの、「100人以上企業」で受注が減少した企業が41.4%を占め、同規模の受注状況D I（3ヶ月前比）は27.6ポイントとなっている。

「3ヶ月後」の受注予想は全ての規模で「不変」が一番多いものの、「100人以上企業」で「増加」とする企業が27.6%あり、全体でも受注予想D Iは8.5ポイントと受注増加を予想する企業が幾分多くなっている。

主要5業種の受注状況D I（3ヶ月前比）は14.6ポイントとなっており、なかでも金属製品が25.0ポイント、電気機械が23.3ポイントと大きく減少しており、金属製品では45.0%の企業が「減少」としている。

「3ヶ月後」の受注予想D Iは7.4ポイントと増加見込みに転じ、なかでも輸送用機械の受注予想D Iは33.3ポイントと高い見込みとなっている。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

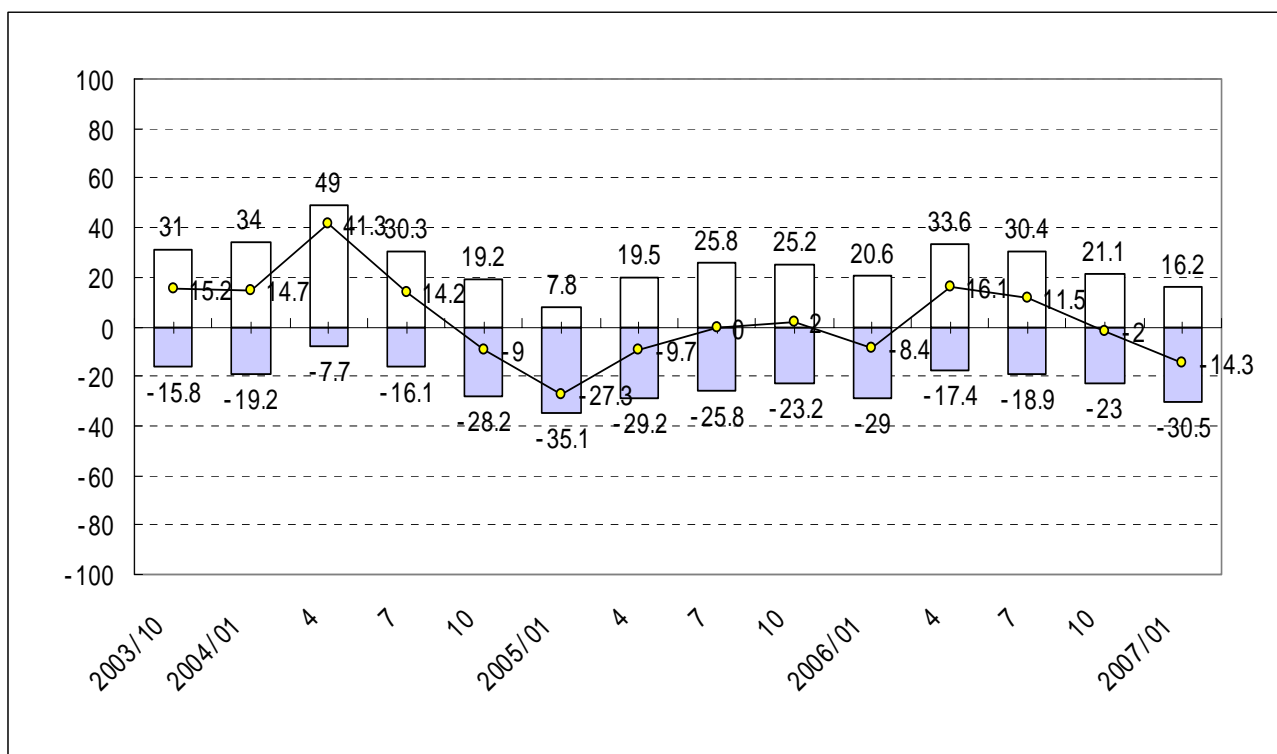
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
<b>製造業</b>	154	16.2	53.2	30.5	-14.3	153	34.0	40.5	25.5	8.5	153	24.2	60.1	15.7	8.5	
規模	1～29人	76	17.1	52.6	30.3	-13.2	74.0	24.3	48.6	27.0	-2.7	75	25.3	54.7	20.0	5.3
	30～99人	49	16.3	59.2	24.5	-8.2	50.0	40.0	38.0	22.0	18.0	49	20.4	71.4	8.2	12.2
	100～人	29	13.8	44.8	41.4	-27.6	29	48.3	24.1	27.6	20.7	29	27.6	55.2	17.2	10.3
分類	金属製品製造業	20	20.0	35.0	45.0	-25.0	21	38.1	38.1	23.8	14.3	20	20.0	70.0	10.0	10.0
	一般機械器具製造業	41	14.6	61.0	24.4	-9.8	40	25.0	45.0	30.0	-5.0	41	14.6	68.3	17.1	-2.4
	電気機械器具製造業	30	10.0	56.7	33.3	-23.3	30	33.3	40.0	26.7	6.7	29	24.1	55.2	20.7	3.4
	輸送用機械器具製造業	18	22.2	55.6	22.2	0.0	18	44.4	33.3	22.2	22.2	18	33.3	66.7	0.0	33.3
	精密機械器具製造業	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	35.7	42.9	21.4	14.3	14	21.4	64.3	14.3	7.1

製造業の受注状況D Iの推移

全社

「3ヶ月前」と比べて

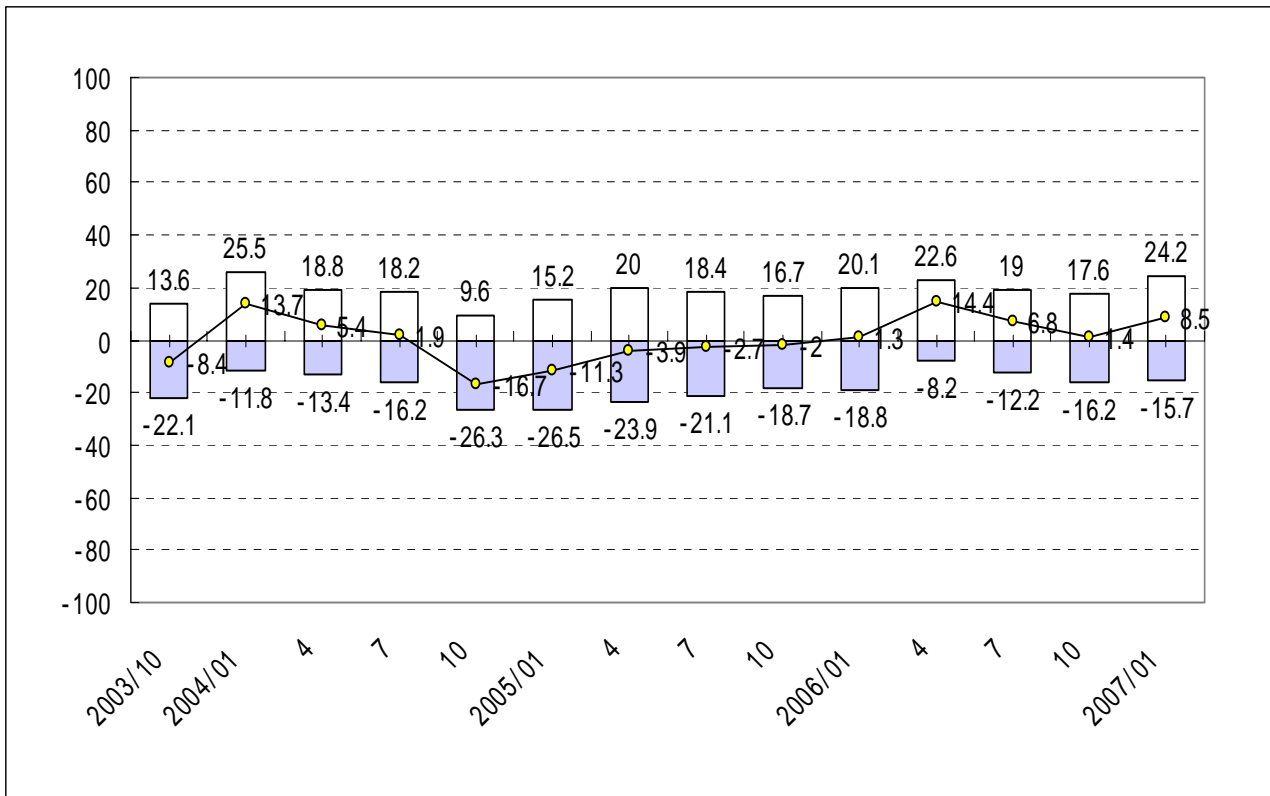
グラフ - 4





「3ヶ月後」の予想

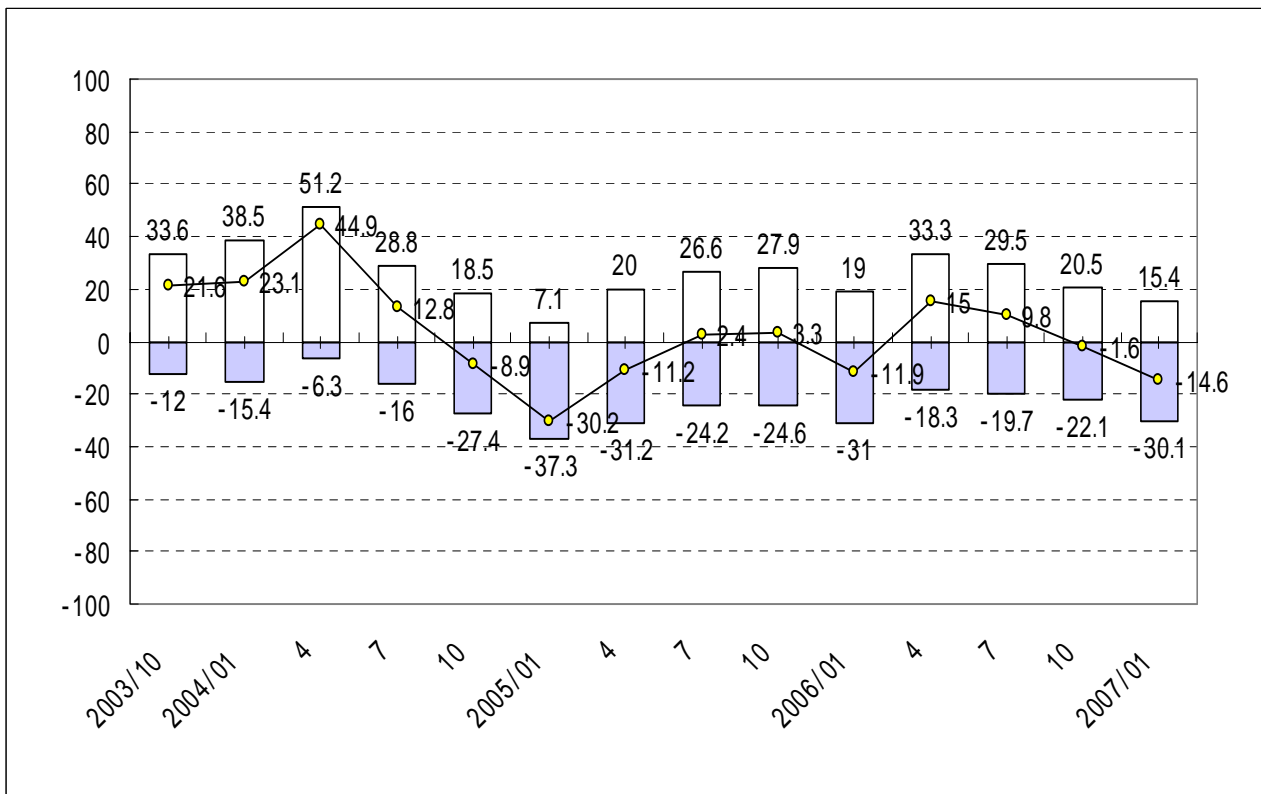
グラフ - 5

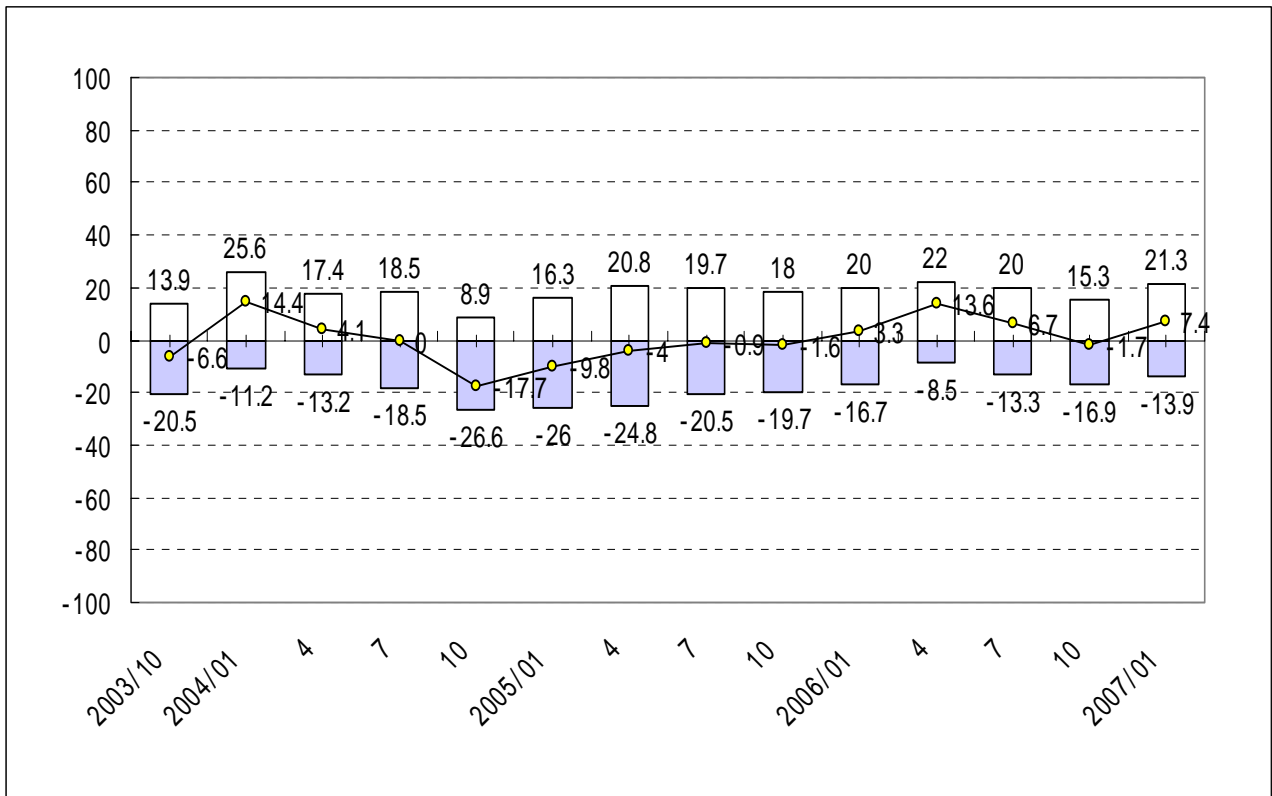


5業種の受注状況D Iの推移

「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6





## 2. 商業・観光サービス業

### 商業

諏訪地方の11月から1月にかけて平均気温は平年より高く、特に1月の平均気温は1898年の統計開始以来8番目の高さとなった。この暖冬の影響から冬物衣料品等の季節商品の動きが鈍く、商業全体での業況判断DI（前年同期比）は16.7ポイントとなっている。

**食料品** 年末年始は食料品の需要が旺盛で順調な売れ行きをみせたが、店舗間での価格競争が激しく客単価は伸びていない。

**衣料品** 防寒衣料品の売れ行きが前年割れの店舗もみられるなど、動きは低調であった。

**ホームセンター** 暖房器具や除雪商品などの動きは弱かったが、生活雑貨などの商品に順調な動きがみられた。職人向け専用商品は、安定した動きとなっている。

**大型家電店** 薄型大型TVやデジタルカメラは順調な動きを見せたが、暖房器具などの動きは低調となっている。

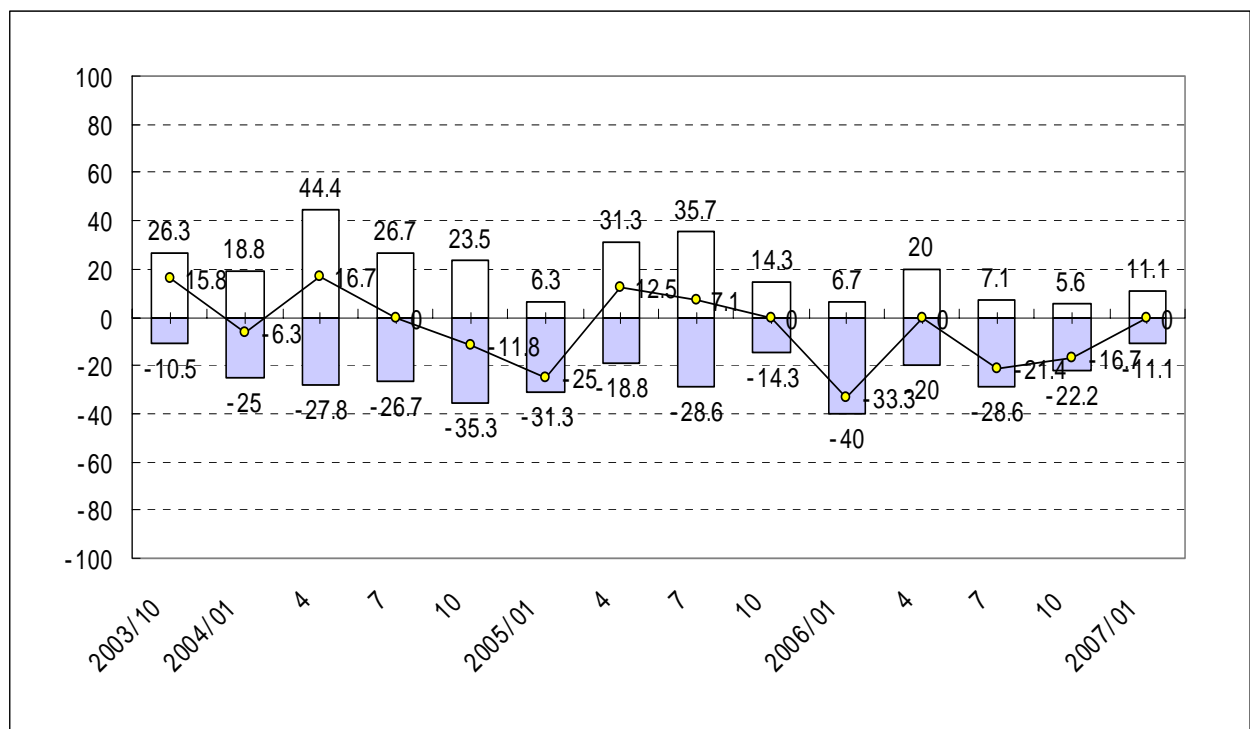
業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	18	11.1	77.8	11.1	0.0	18	16.7	50.0	33.3	-16.7	18	22.2	72.2	5.6	16.7
客単価	18	22.2	66.7	11.1	11.1	18	22.2	66.7	11.1	11.1	18	22.2	72.2	5.6	16.7
来店客数	16	25.0	56.3	18.8	6.3	16	18.8	31.3	50.0	-31.3	16	25.0	56.3	18.8	6.3

商業全社の業況判断DIの推移（「3ヶ月前」と比べて）

グラフ - 8



観光・サービス業

ウインターシーズンを迎えたが、年末の降雪量が少なくスキー場などが影響を受けた。

業況判断DIは、季節要因から「3ヶ月前比」では低調となっているも、「前年同期比」では5.9ポイントと回復している。

上諏訪温泉は、忘新年会プランなどの特別企画や各種イベントを実施し宿泊人員を伸ばしたところが多い。ただし、売上高ベースでは宿泊単価の下落から前年同期比で横這いから微増に留まっている模様である。

白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、雪不足から宿泊客が減少したところがみられるが、なかには穏やかな天候から年末年始の宿泊客が例年を上回ったところもあり区々の状況となっている。

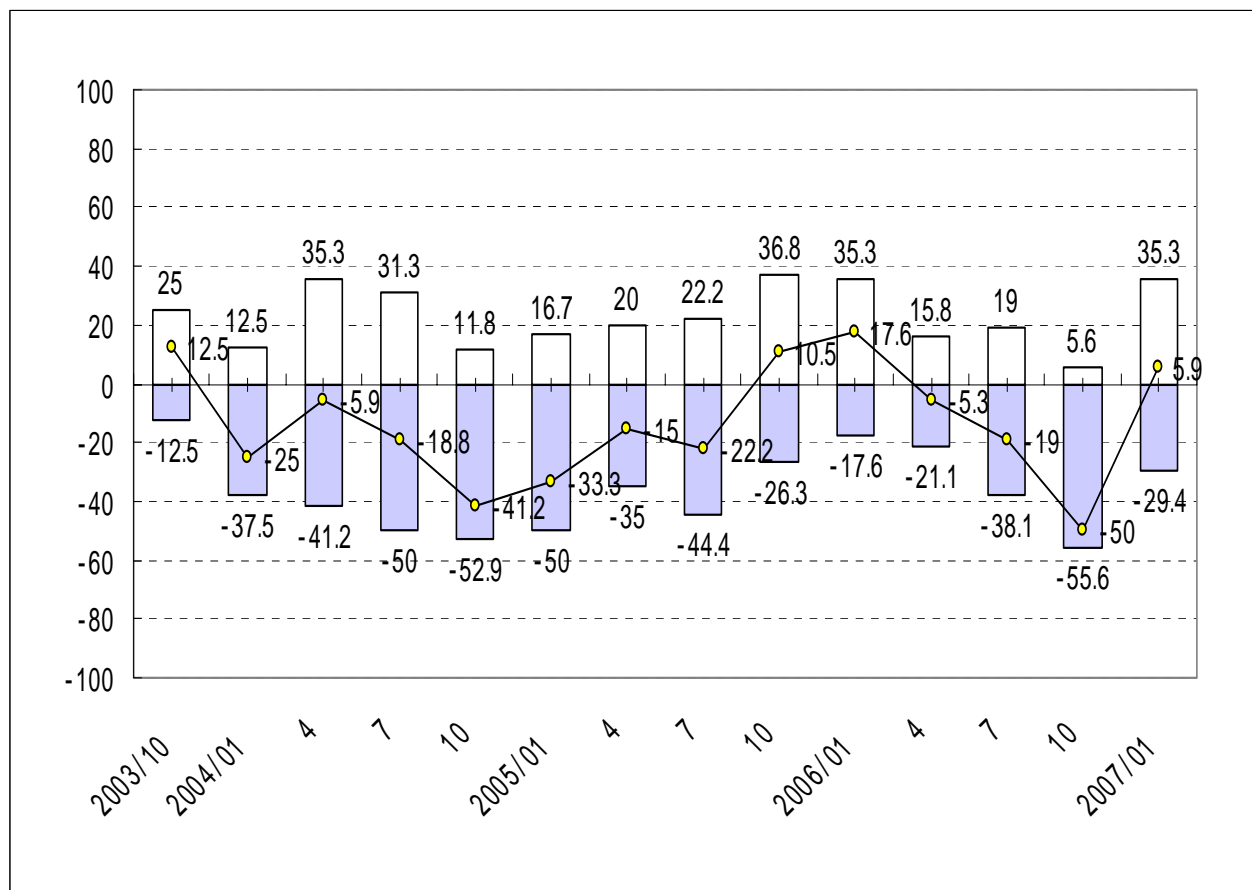
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	17	23.5	23.5	52.9	-29.4	17	35.3	35.3	29.4	5.9	17	41.2	35.3	23.5	17.6
客単価	16	12.5	62.5	25.0	-12.5	15	6.7	73.3	20.0	-13.3	16	12.5	75.0	12.5	0.0
宿泊客数	17	17.6	23.5	58.8	-41.2	17	35.3	23.5	41.2	-5.9	17	35.3	29.4	35.3	0.0

観光・サービス業全社の業況判断DIの推移（「前年同期」と比べて）

グラフ - 9



### 3. 建設業

「平成 18 年 7 月豪雨災害」の復興工事により地元企業の受注が増加した。これにより、「3ヶ月前比」の業況判断DIは0.0ポイントと9期振りにマイナスから脱し、「前年同期比」も7.1ポイントと回復している。ただし、「3ヵ月後の予想」では50%の企業が受注減少を予想しており慎重な見方が強い。

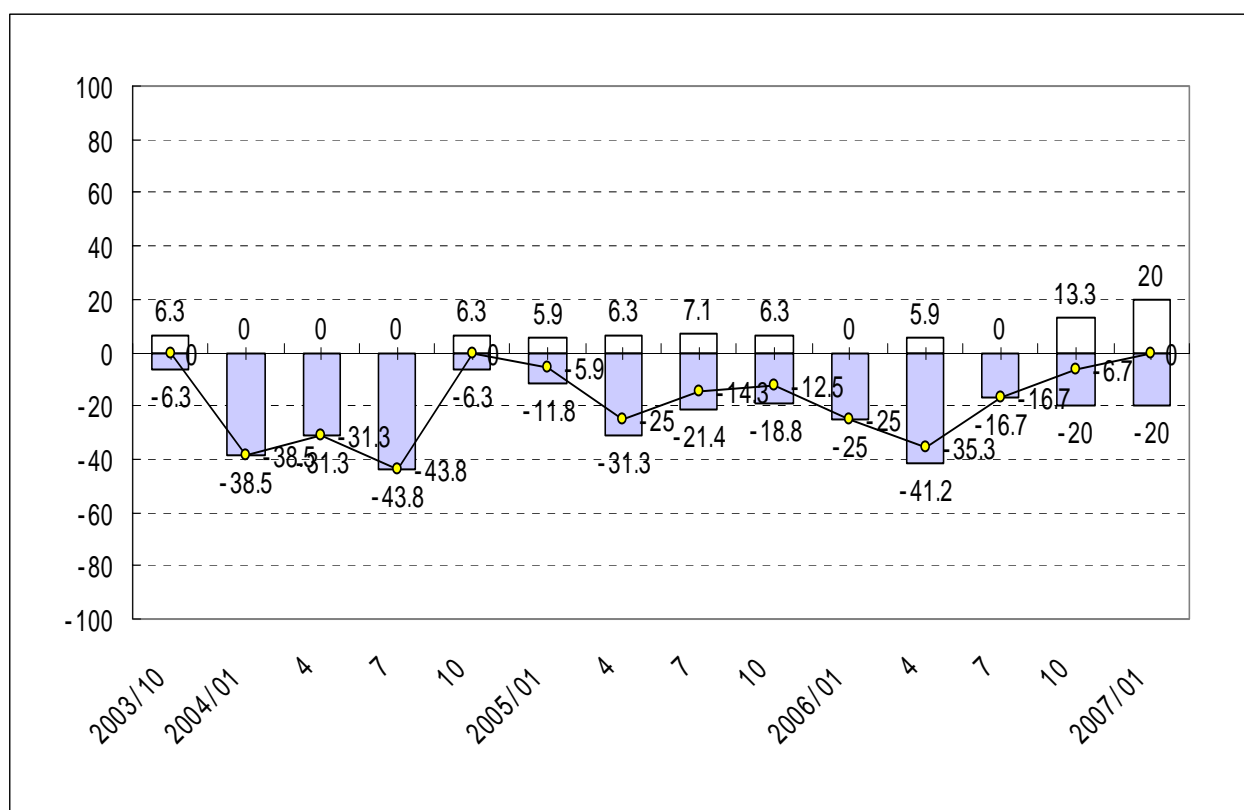
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	15	20.0	60.0	20.0	0.0	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	21.4	64.3	14.3	7.1
受注状況	15	33.3	40.0	26.7	6.7	14	35.7	28.6	35.7	0.0	14	21.4	28.6	50.0	-28.6
外注発注量	14	21.4	57.1	21.4	0.0	14	28.6	35.7	35.7	-7.1	15	13.3	46.7	40.0	-26.7

建設業全社の業況判断DIの推移（「3ヶ月前」と比べて）

グラフ - 10



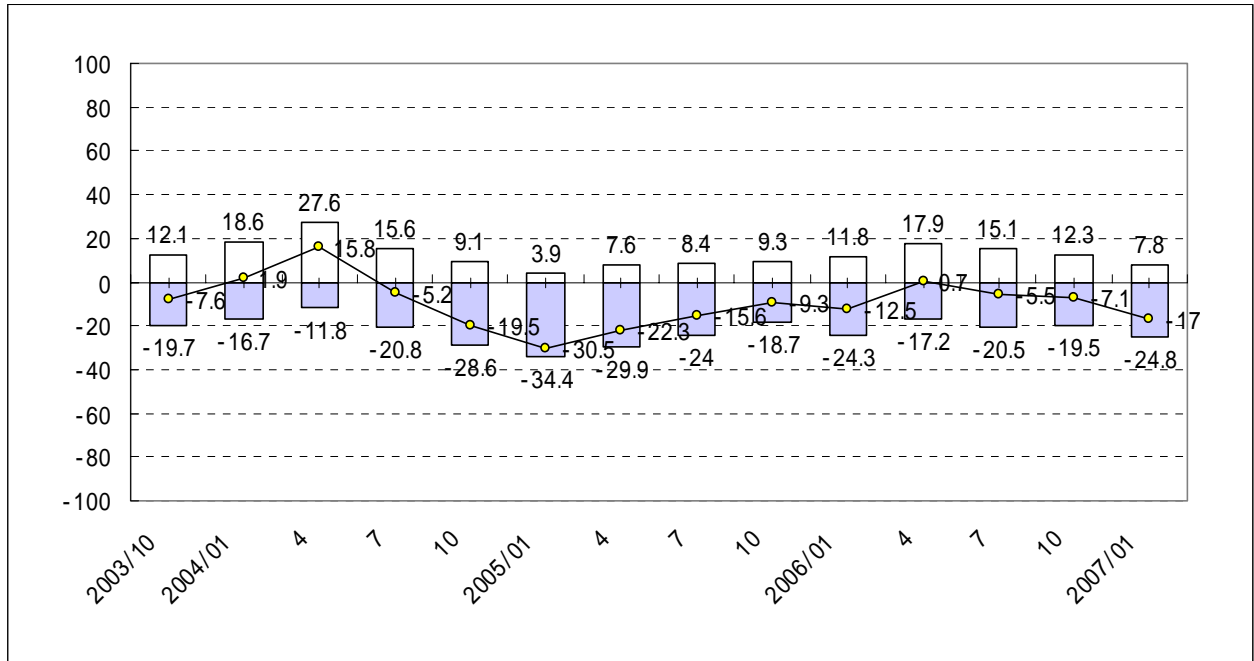
#### 4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性D Iは、 17.3ポイントでマイナス幅が拡大した。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I（3ヶ月前比）は7.6ポイント改善したが、製造業の収益性D I（3ヶ月前比）が10ポイント近く低下した。製造業は受注状況に一服感があるなかで原材料高等が受注単価に反映されないこと、非製造業も店舗・企業間の販売競争が激しいことなどから、地域企業の多くが大企業の好調な景況感と異なる実態が窺える。

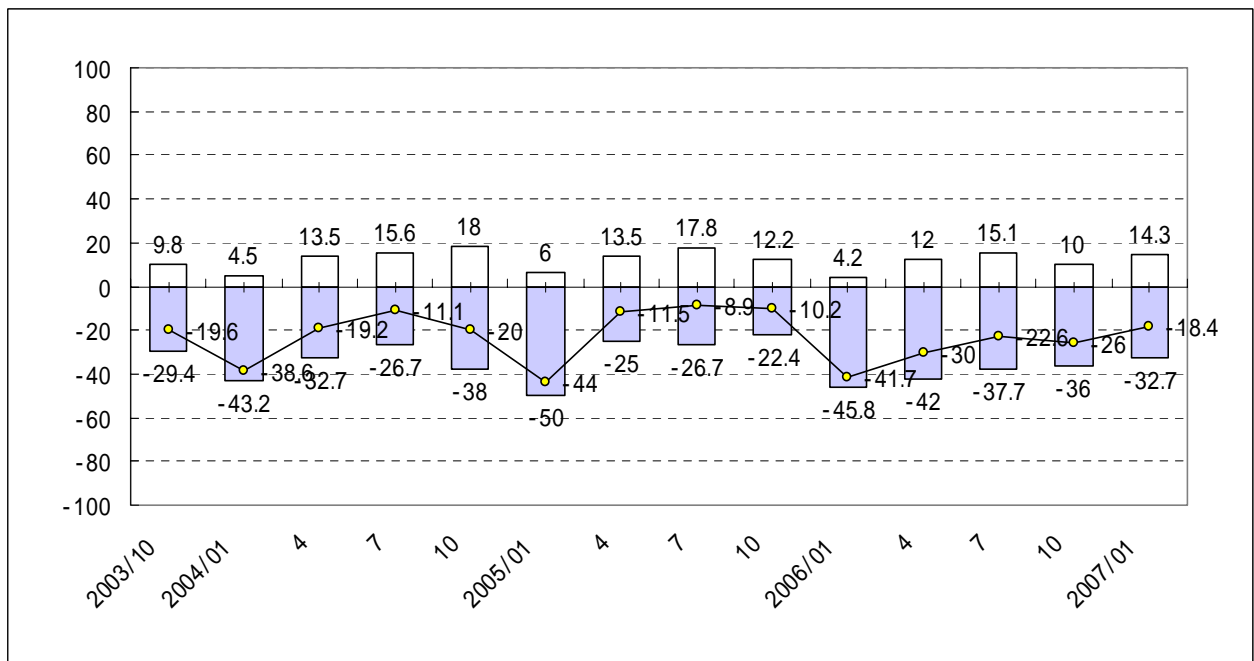
製造業：収益性D I（3ヶ月前比）

グラフ - 11



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：収益性D I（3ヶ月前比）

グラフ - 12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として、製造業は売上減少・受注単価引下げ・競争激化をあげる企業が多く、商業は売上減少・労働力確保・競争激化、建設業は競争激化・受注単価引下げ、観光・サービス業は売上減少・資金繰りをあげている。その他の課題として、製造業では原材料の高止まり、即戦力となる人材（技術者）確保をあげる企業が多い。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	94	68	10	5	11
単価引下げ	61	48	1	8	4
競争激化	68	47	9	10	2
資金繰り	39	25	4	3	7
人件費	30	21	6	1	2
労働力確保	45	31	9	1	4

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率 【12月】	諏訪公共職業安定所管内	1.19 倍	0.04 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.93 倍	0.45 ポイント
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	14,002 枚	409 枚
	金額	19,279 百万円	2,244 百万円
うち不渡り 発生状況	枚数	2 枚	5 枚
	金額	3,300 千円	1,126 千円
車庫証明取扱件数【1月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		984 件	16.1 %
新設住宅着工件数 (18.4~18.12月) (諏訪地方事務所管内)		1,566 件	9.1 %

## 7. 調査概要

1. 調査期間 平成 19 年 1 月末
2. 調査内容 「平成 19 年 1 月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
3. 調査方法 アンケート調査及びヒヤリング調査
4. 対象地域 諏訪地域全域
5. 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積 501 m<sup>2</sup>以上）、建設業、観光・サービス業
6. 回答企業数 204 企業
7. 回答率 68.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	154	18	15	17	204